

第2章 市民の健康状況

第1節 保健統計からみた市民の健康

(1) 人口と年齢構成の推移

秋田市の人口は、一貫して増加を続けてきましたが、平成14年をピークに減少に転じました。平成17年1月の市町合併により一旦人口は増加したものの、平成21年においても減少傾向は続いています。

年齢3区分別人口割合の推移をみると、昭和50年代以降の出生数の減少傾向と死亡状況の改善による高年齢層の増加から、0歳から14歳までの年少人口割合は低下し、65歳以上の老年人口割合は上昇しており、老年人口割合が年少人口割合を上回る状態が続いています。さらに15歳から64歳までの生産年齢人口割合も年々低下し、平成21年では63.8%と低下傾向が続いています。

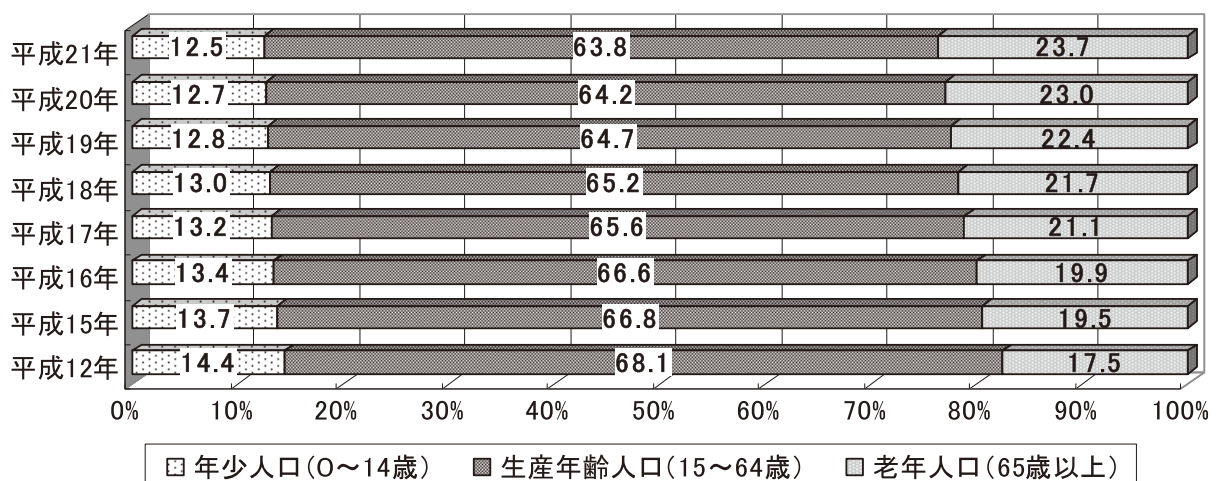
表1 秋田市の人口の年次推移

単位：人

	平成12年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
総人口	317,625	318,046	318,017	333,109	331,834	329,452	327,314	325,837
(再掲) 年少人口 (0～14歳)	45,655	43,465	42,771	43,879	43,221	42,230	41,537	40,684
生産年齢人口 (15～64歳)	216,200	212,513	211,845	218,498	216,302	213,115	209,991	207,731
老年人口 (65歳以上)	55,689	61,987	63,320	70,371	71,950	73,746	75,425	77,061
年齢不詳	81	81	81	361	361	361	361	361

資料：統計から見た伸びゆく秋田市 秋田市企画調整部情報統計課（各年10月1日現在）

グラフ1 年齢3区分別人口割合の年次推移

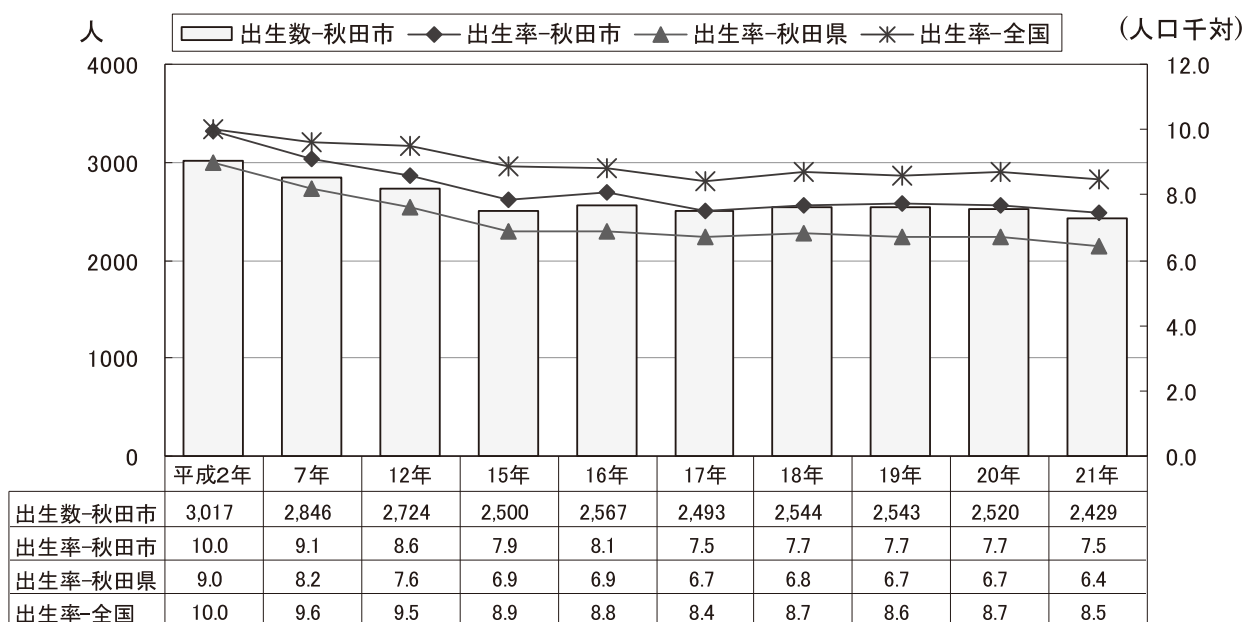


(2) 出生と死亡の動き

秋田市の出生数は、昭和46年から49年の第2次ベビーブーム期以降、減少傾向が続いていましたが、近年は、2,500人前後で推移しています。出生率は、秋田県の値よりも高いものの、全国平均を下回る状況が続いています。

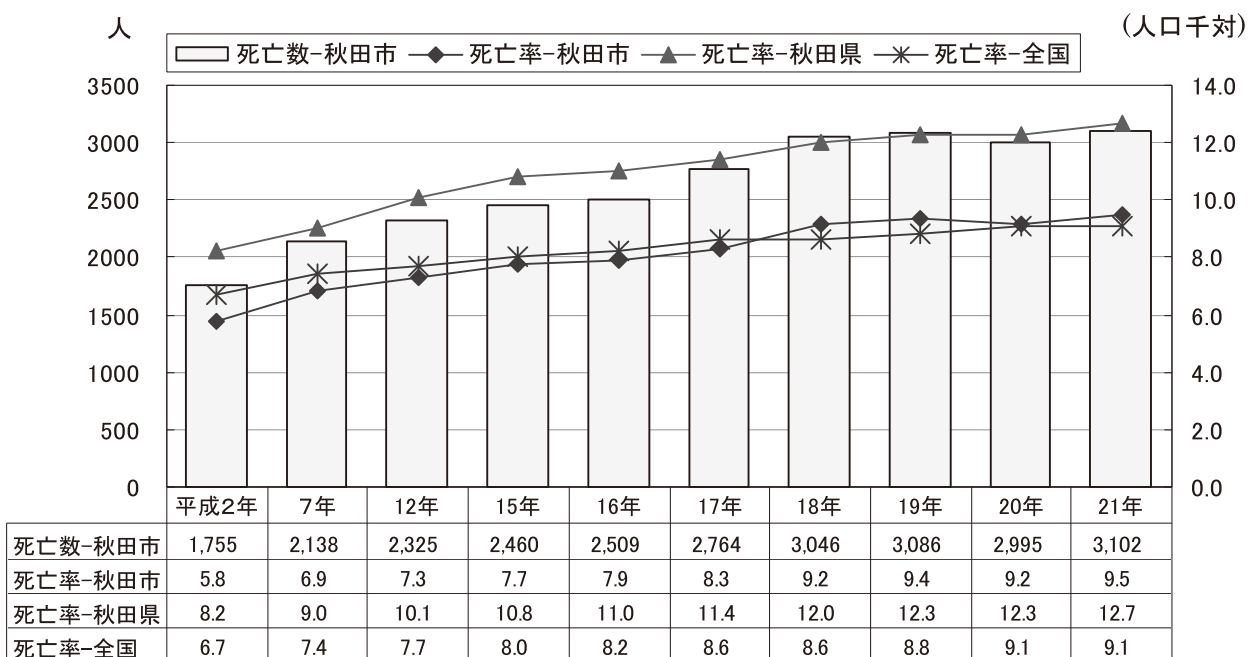
死亡数は、昭和40年以降、ほぼ一貫して増加を続けており、平成18年以降3,000人を超える状態が続いています。死亡率は、これまで秋田県、全国よりも低い率で推移してきましたが、平成18年以降は全国平均を上回っています。

グラフ2 出生数と出生率の年次推移



資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあまし

グラフ3 死亡数と死亡率の年次推移

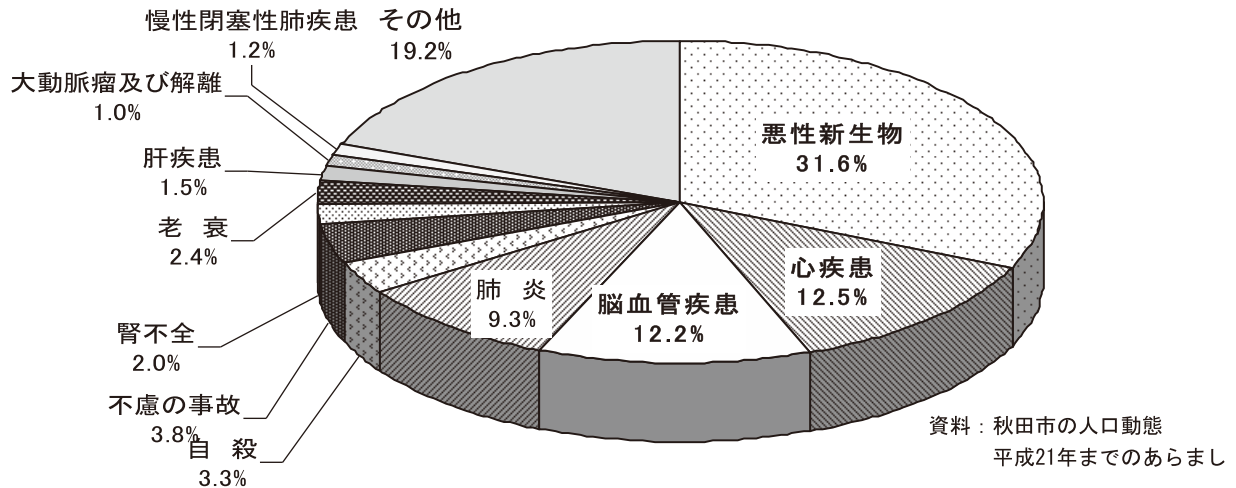


資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあまし

(3) 主要死因別疾患割合

平成21年の秋田市における死亡数は3,102人で、死因の第1位が悪性新生物（がん）で979人、第2位が心疾患（心臓病）で389人、第3位が脳血管疾患（脳卒中）で379人となっており、いわゆる生活習慣病とされる3大死因で全死因の56.3%を占めています。

グラフ4 主要死因別疾患割合（平成21年）



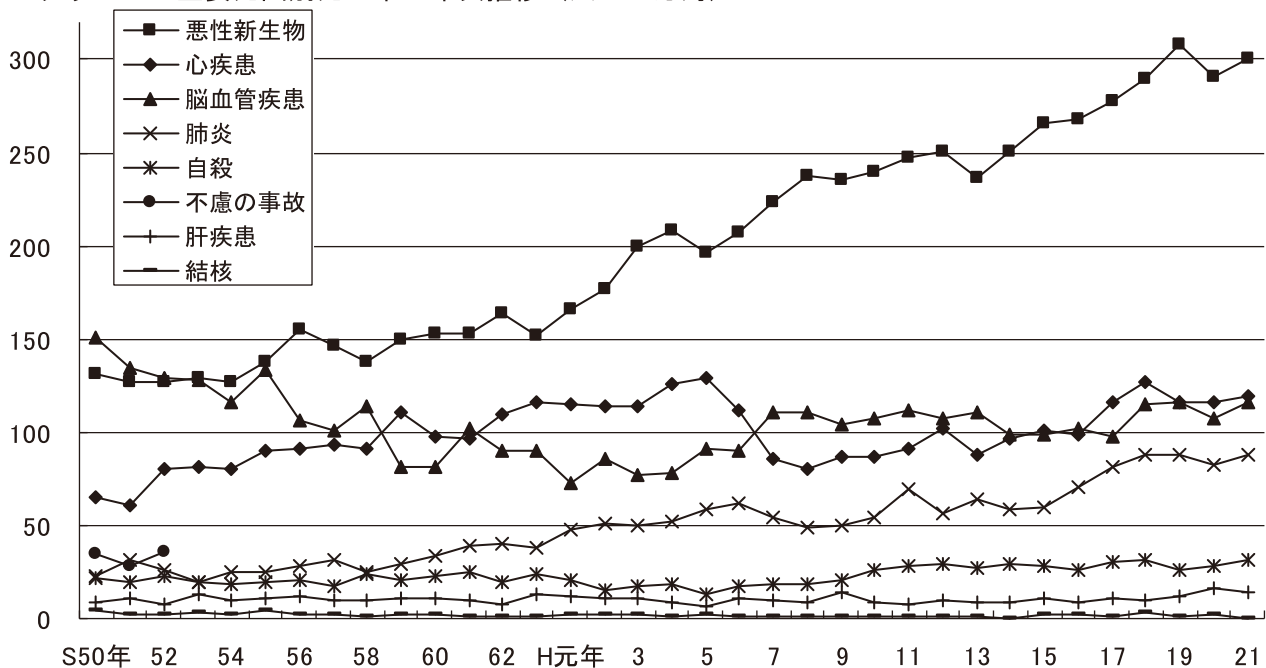
(4) 主要死因別死亡率の年次推移

平成21年の主な死因別の死亡率（人口10万対）をみると、悪性新生物（がん）300.5、心疾患（心臓病）119.4、脳血管疾患（脳卒中）116.3、肺炎88.4、自殺31.0などとなっています。

年次推移をみると、悪性新生物はほぼ一貫して増加の傾向をみせており、昭和53年以降死因順位の第1位となっています。心疾患は昭和62年に第2位となり、その後も上昇傾向にありましたが、平成6、7年には急激に低下しました。平成9年からは再び上昇傾向となっています。

平成21年は心疾患が第2位となっています。脳血管疾患は昭和50年以降低下傾向にあったものの、平成5、7年に上昇し、近年は横ばいで推移しています。

グラフ5 主要死因別死亡率の年次推移（人口10万対）



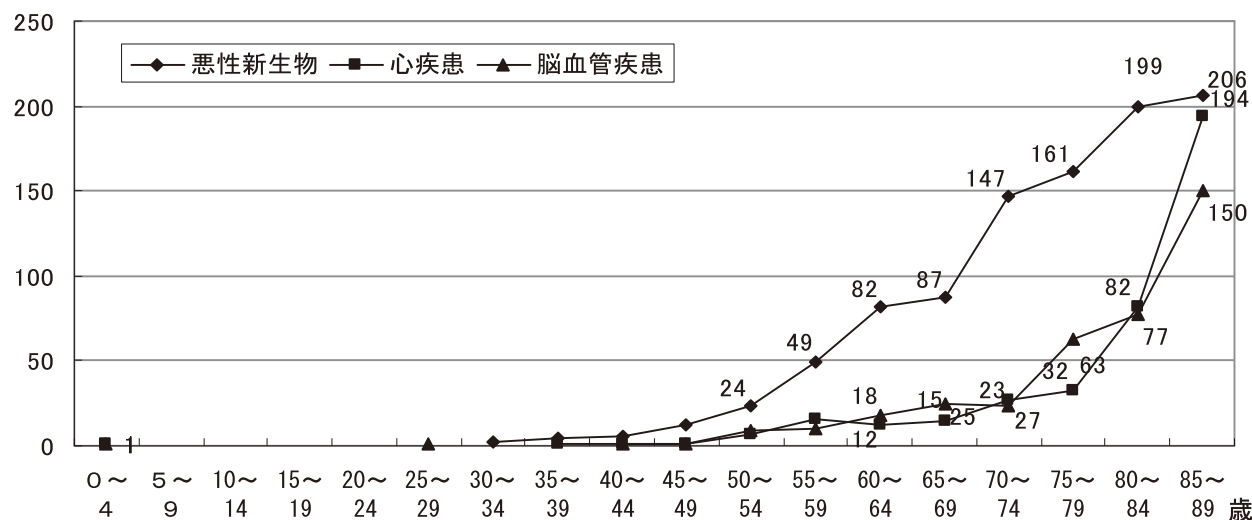
資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

(5) 3大死因の年齢階級別死亡数

秋田市における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の3大死因の死亡数を年齢階級別にみると、心疾患と脳血管疾患は、70歳代後半から増え始め、80歳代後半にピークを迎えています。悪性新生物は、50歳代前半から増え始め、80歳代でピークとなっています。

グラフ6 3大死因の年齢階級別死亡数（平成21年）

単位：人

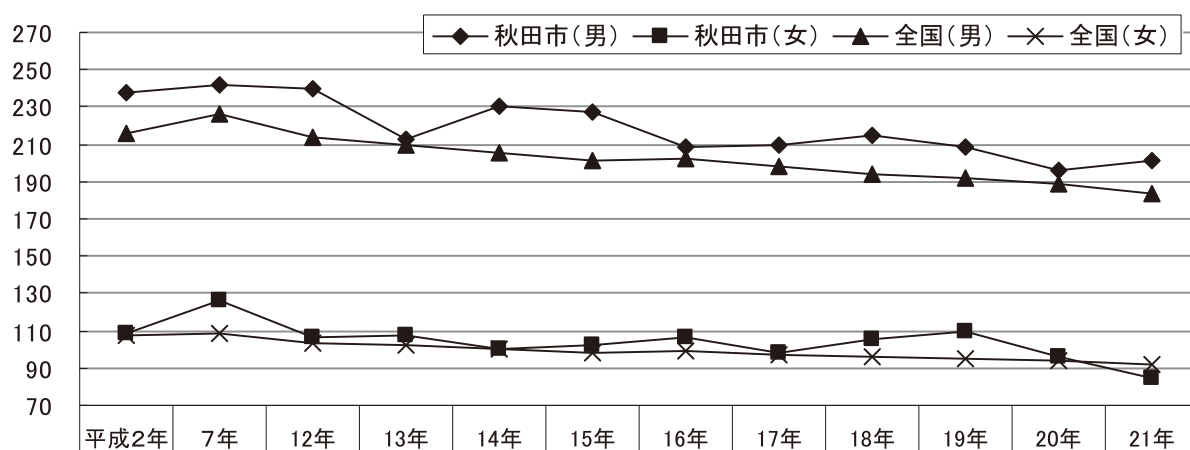


資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

(6) 悪性新生物の年齢調整死亡率の年次推移

悪性新生物の年齢調整死亡率^(注1)の推移をみると、近年は横ばい傾向を示しており、この間一貫して全国平均を上回っています。女性は緩やかな低下傾向にあるものの、男性と同様に全国平均を上回っている状態ですが、平成21年は全国平均を下回りました。

グラフ7 悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移



	平成2年	7年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年
秋田市(男)	237.9	241.5	239.7	213.2	230.5	227.5	208.5	210.0	215.1	208.5	196.3	201.0
秋田市(女)	108.5	125.8	106.1	107.7	99.8	102.1	106.6	98.3	105.2	109.5	95.8	84.3
全国(男)	215.6	226.1	214.0	209.4	205.1	201.7	202.0	197.7	193.6	191.5	188.9	183.3
全国(女)	107.7	108.3	103.5	102.5	99.7	98.1	99.2	97.3	95.8	94.5	94.2	92.2

資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

注1) 年齢調整死亡率

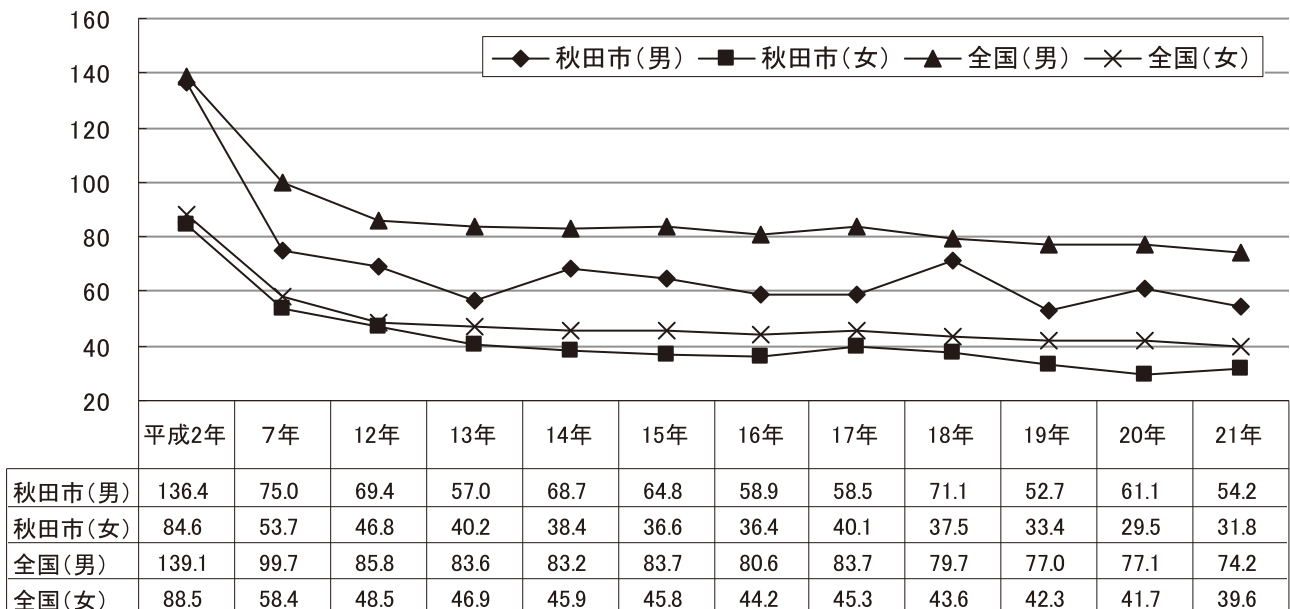
年齢調整死亡率とは、人口の年齢構成の影響を調整して求める死亡率をいう。

死亡率（粗死亡率）は、死亡数／人口で単純に求められるが、高齢者の多い地域では死亡率が高くなる傾向があり、この計算方法では地域での単純な比較に適していないため、一般的には「昭和60年モデル人口」を用い、地域の人口年齢構成が一定のものと仮定して再計算した死亡率である。

(7) 心疾患の年齢調整死亡率の年次推移

心疾患の年齢調整死亡率の推移をみると、男女とも平成12年頃まで低下傾向にあったものの、近年は横ばい傾向となっており、全国平均よりも低い値で推移しています。

グラフ8 心疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移

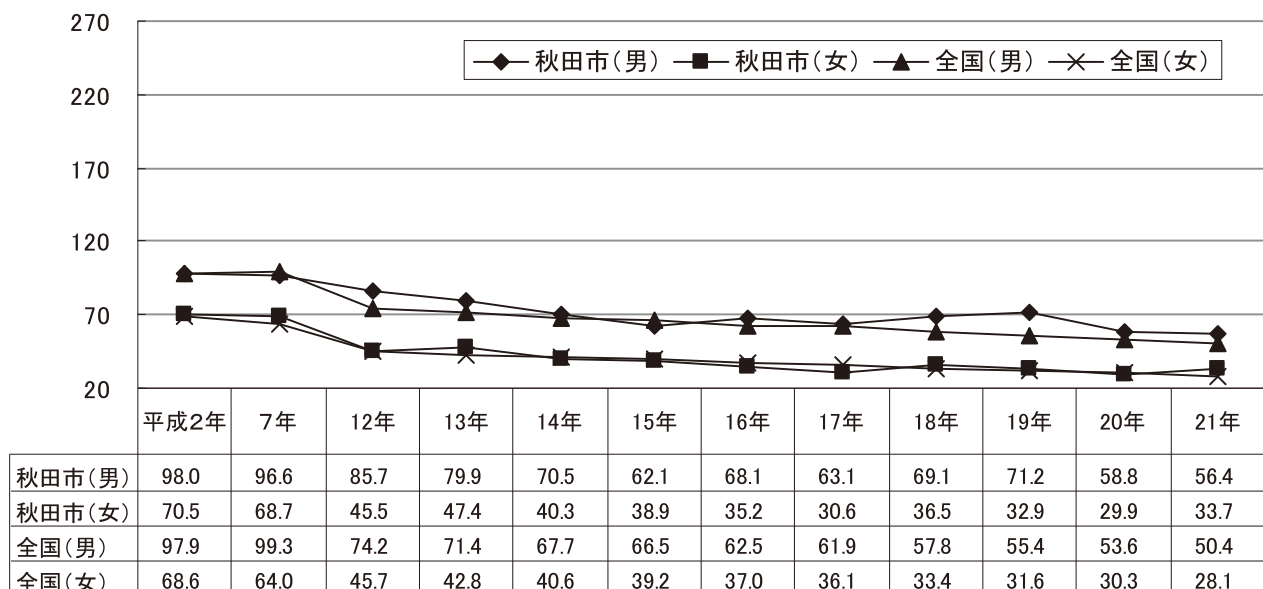


資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

(8) 脳血管疾患の年齢調整死亡率の年次推移

脳血管疾患の年齢調整死亡率の推移をみると、男女ともに低下傾向にあったものの、近年は横ばい傾向となっており、全国平均とほぼ同じ値で推移しています。

グラフ9 脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移

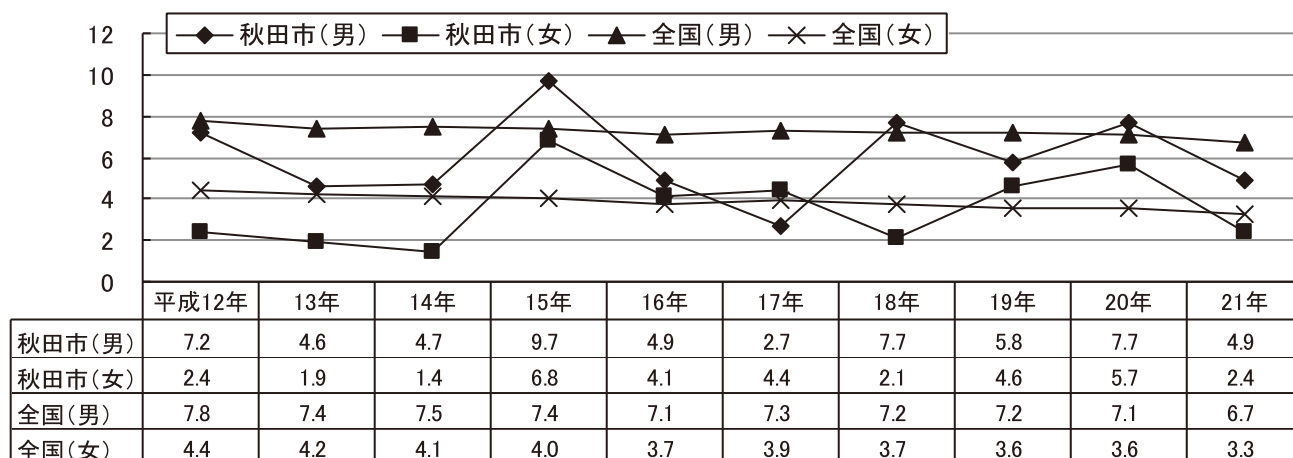


資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

(9) 糖尿病の年齢調整死亡率の年次推移

糖尿病の年齢調整死亡率の推移をみると、男女ともに平成14年まで全国平均よりも低い値で推移していたものの、平成15年と20年に上昇し、全国平均の値を上回りました。平成21年については、低下し全国平均を下回っております。

グラフ10 糖尿病の年齢調整死亡率（人口10万対）の年次推移



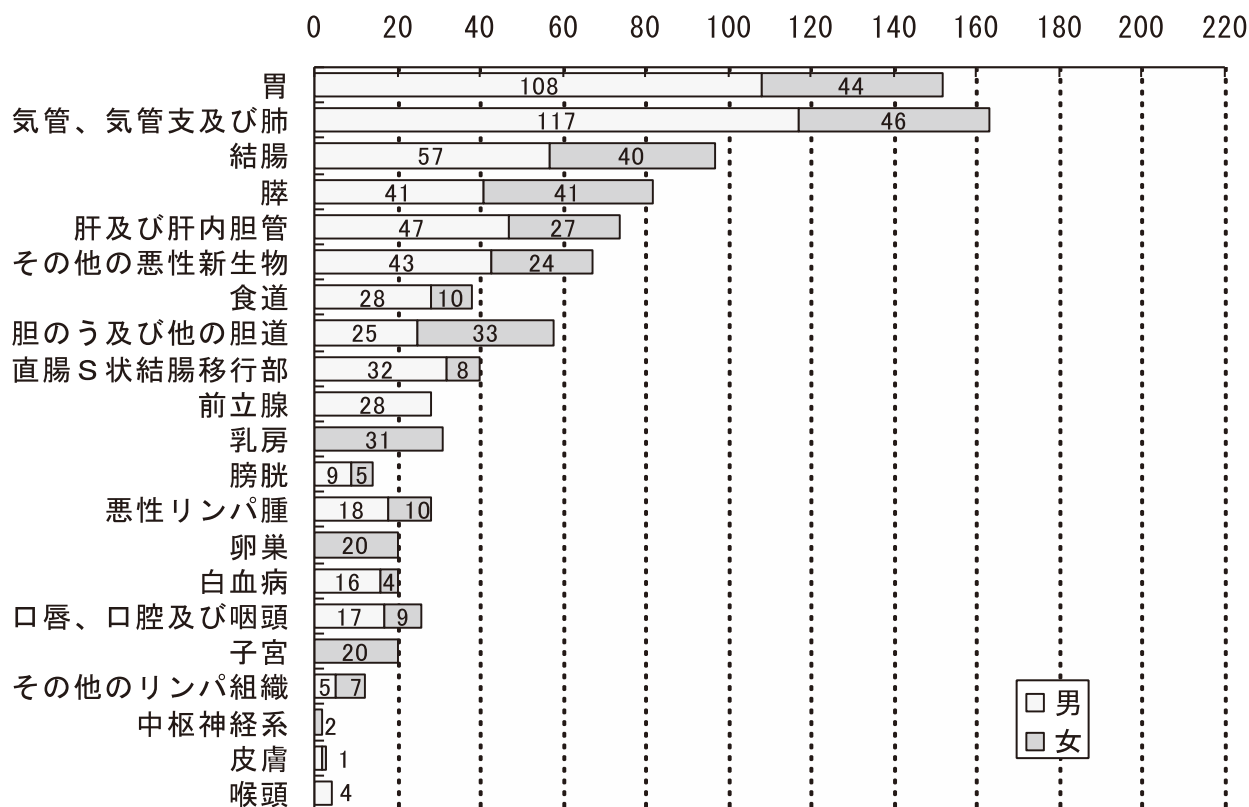
資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

(10) 性・部位別にみた悪性新生物死亡数

秋田市における悪性新生物による死亡数を性・部位別にみると、肺がんによるものが163人（男117人、女46人）と最も多く、全体の16.6%（男19.6%、女12.0%）を占めています。続いて胃がん152人（男108人、女44人）、結腸がん97人（男57人、女40人）などの順となっています。

グラフ11 性・部位別にみた悪性新生物死亡数（平成21年）

人

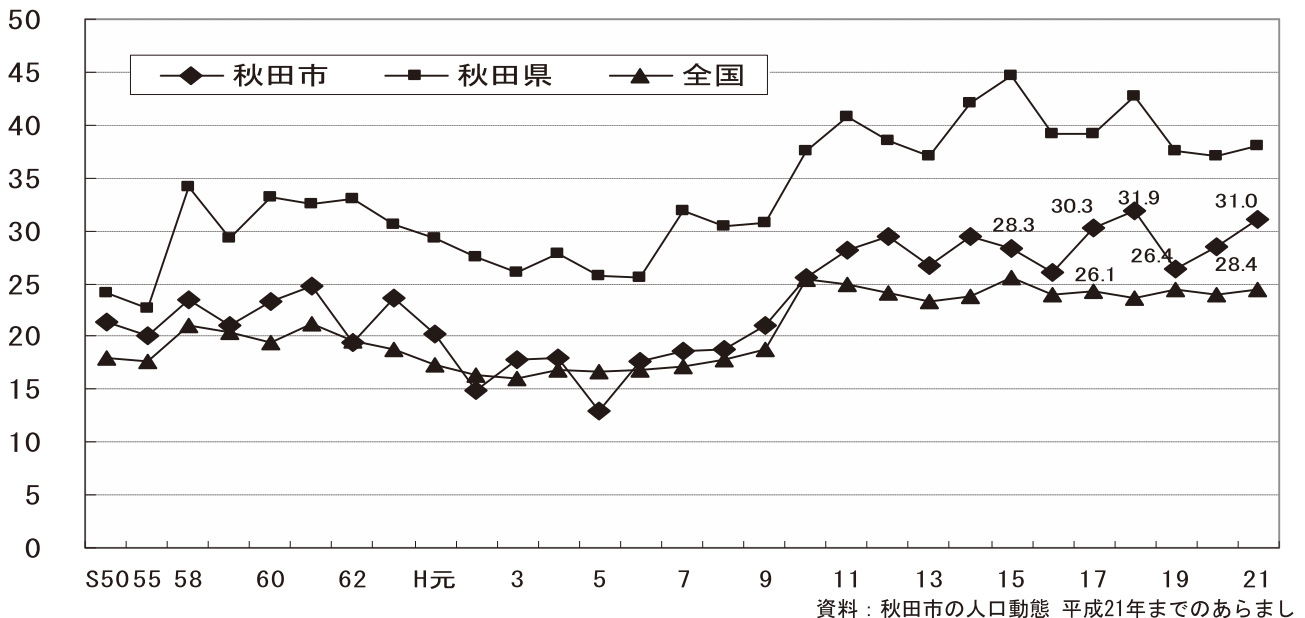


資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらまし

(11) 自殺死亡率の年次推移

自殺死亡率の推移をみると、秋田市、秋田県、全国ともに昭和62年以降、低下の傾向にありましたが、平成7年以降、上昇傾向に転じています。秋田市は、一貫して秋田県の値を下回っているものの、おおむね全国平均を上回って推移しています。

グラフ12 自殺死亡率（人口10万対）の年次推移

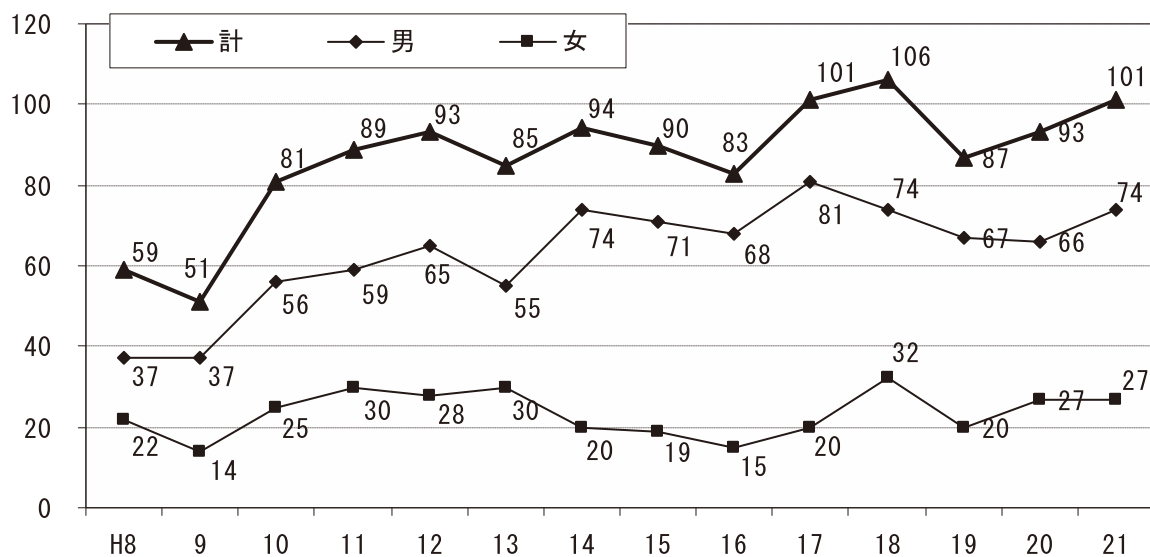


(12) 自殺死亡数の年次推移

秋田市における自殺死亡数の推移をみると、平成10年以降の上昇傾向が続いており、平成21年の自殺死亡数は101人となっております。自殺死亡数を男女別にみると、男性が女性を上回っており、平成21年では男性の自殺死亡数が全体の73.3%を占めています。

グラフ13 自殺死亡数の年次推移

単位：人

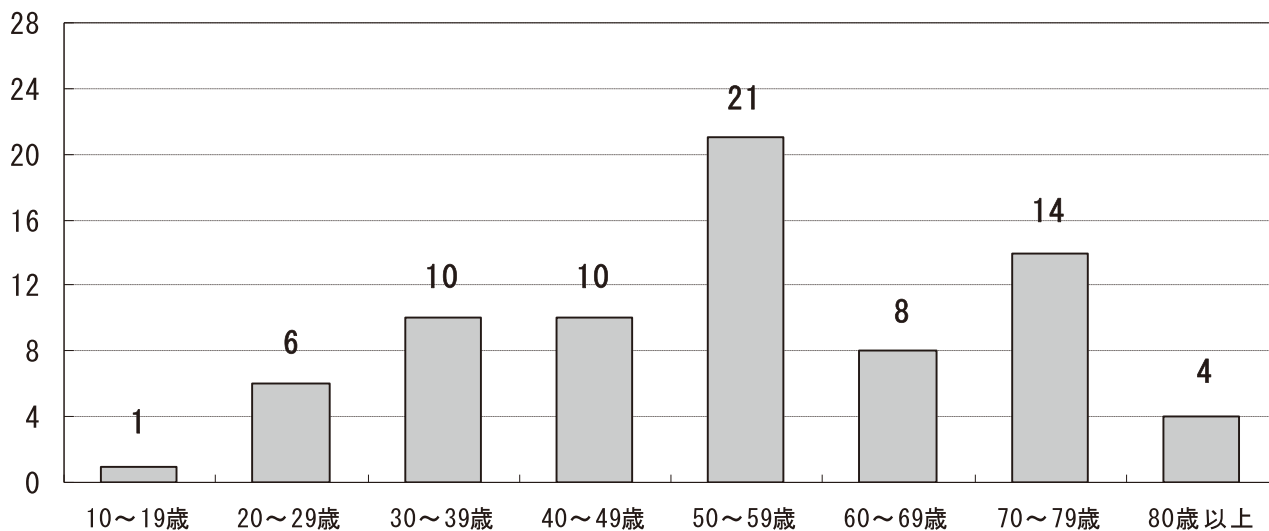


(13) 年齢階級別にみた自殺死亡数

平成21年の秋田市における自殺死亡数を年齢階級別にみると、男性では50歳代が21人と最も多く、全体の28.4%を占めています。女性では20代と50代が5人で最も多く、どちらも全体の18.5%を占めています。

グラフ14 年齢階級別自殺死亡数，男（平成21年）

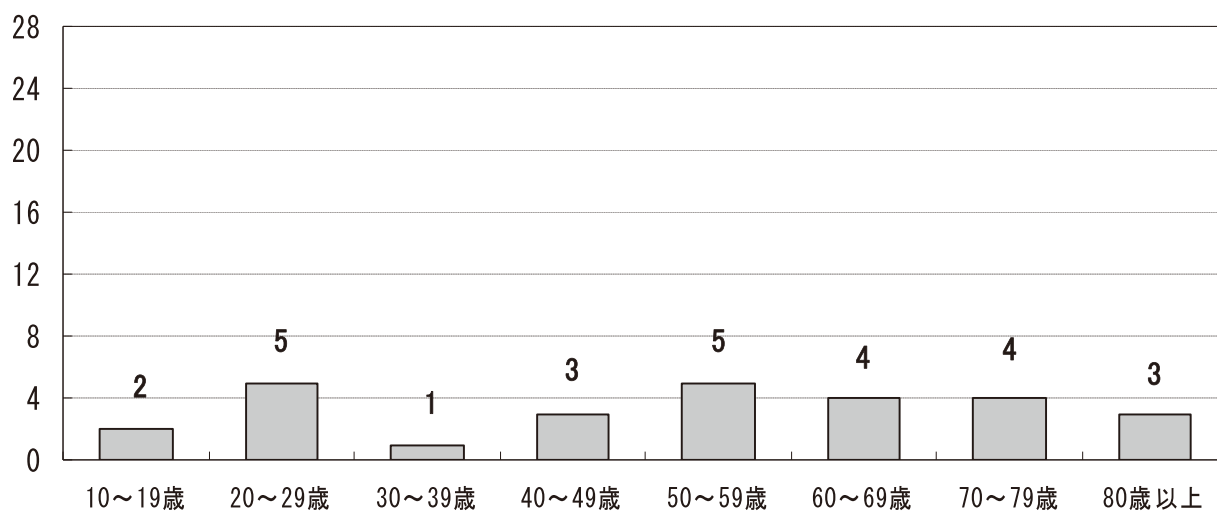
単位：人



資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらし

グラフ15 年齢階級別自殺死亡数，女（平成21年）

単位：人

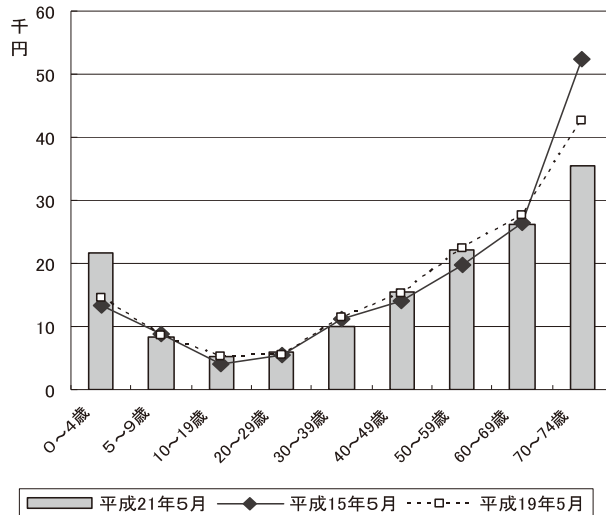


資料：秋田市の人口動態 平成21年までのあらし

(14) 国民健康保険被保険者における1人当たりの年齢別診療費の推移

年齢別診療費は、「0～4歳」を除きほぼ横ばいに推移しています。

(単位：円)

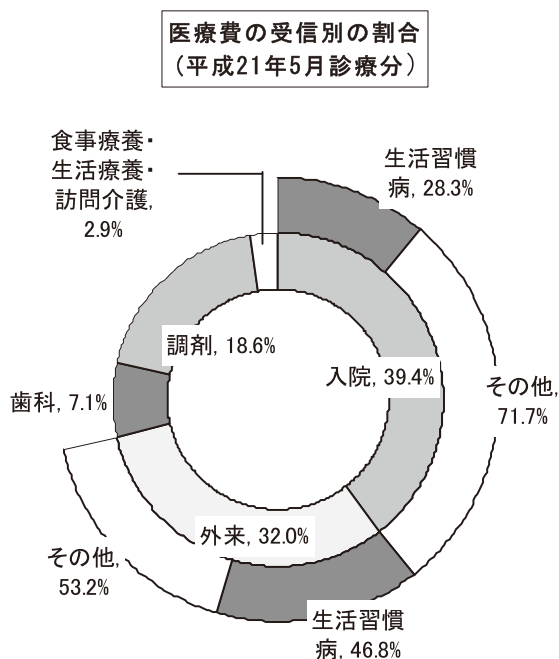


年 齢	H15 年 5 月	H19 年 5 月	H21 年 5 月
0 歳～4 歳	13,383	14,565	21,683
5 歳～9 歳	8,887	8,478	8,352
10 歳～19 歳	4,143	5,243	5,288
20 歳～29 歳	5,471	5,529	5,878
30 歳～39 歳	11,161	11,534	9,984
40 歳～49 歳	14,092	15,136	15,451
50 歳～59 歳	19,848	22,340	22,202
60 歳～69 歳	26,491	27,604	26,277
70 歳～74 歳	52,409	42,643	35,376

※平成15・19年の70～74歳は、70歳以上の金額

(15) 国民健康保険における生活習慣病の状況

平成21年5月(医療費の統計調査の全国的基準月)診療分における国民健康保険の医療費のうち、診療別の割合が最も多いのが入院で、全体の39.4%になっています。そのうち生活習慣病※の割合は28.3%です。また、外来でも、生活習慣病の割合は46.8%になっており、生活習慣病※の医療費に占める割合が大きくなっています。



※ 生活習慣病として集計したもの

(社会保険表章による疾病分類表(119項目)から、日本生活習慣病予防協会が定める下記の12疾病を集計)

- 1 結腸の悪性新生物(大腸がん)
- 2 肺の悪性新生物(肺扁平上皮がん)
- 3 糖尿病
- 4 その他内分泌疾患(糖質異常症、肥満症)
- 5 高血圧性疾患
- 6 虚血性心疾患(心筋梗塞)
- 7 脳内出血
- 8 脳梗塞
- 9 慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)
- 10 歯肉炎・歯周疾患(歯周病)
- 11 アルコール性肝炎
- 12 炎症性多発性関節障害(痛風)

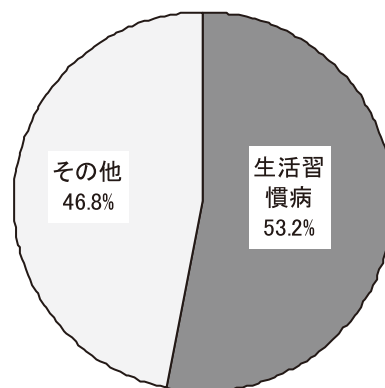
第2章 | 市民の健康状況

疾病分類※にみると、件数でも生活習慣病が上位にきており、特に循環器系疾患（高血圧や脳血管疾患など）、消化器系疾患、内分泌系疾患（糖尿病や脂質異常など）の件数だけで全体の53.2%になっています。

また、医療費でも循環器系疾患、消化器系疾患、内分泌系疾患で全体の45.1%になっています。

■疾病分類(19分類)による件数（平成21年5月診療分）

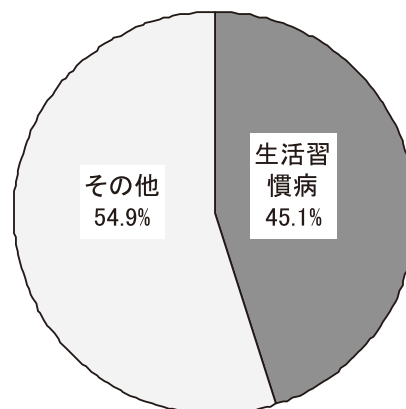
	疾病名	件数(人)
1位	循環器系	13,985
2位	消化器系	12,617
3位	内分泌系	7,368
4位	筋骨格系	6,877
5位	眼疾患	5,568
6位	呼吸器系	4,597
7位	精神障害	3,359
8位	新生物	2,794
9位	腎尿路生殖器	2,015
10位	損傷、中毒	1,313
—	上記以外の疾患	3,401
	合計	63,894



は、生活習慣病に起因する疾病

■疾病分類(19分類)による医療費（平成21年5月診療分）

	疾病名	医療費(円)
1位	循環器系	324,967,100
2位	新生物	247,092,810
3位	消化器系	219,622,420
4位	内分泌系	173,483,170
5位	精神障害	170,847,390
6位	筋骨格系	100,848,720
7位	腎尿路生殖器	82,609,360
8位	呼吸器系	62,435,830
9位	神経系	60,802,540
10位	眼疾患	53,696,400
—	上記以外の疾患	96,081,870
	合計	1,592,487,610



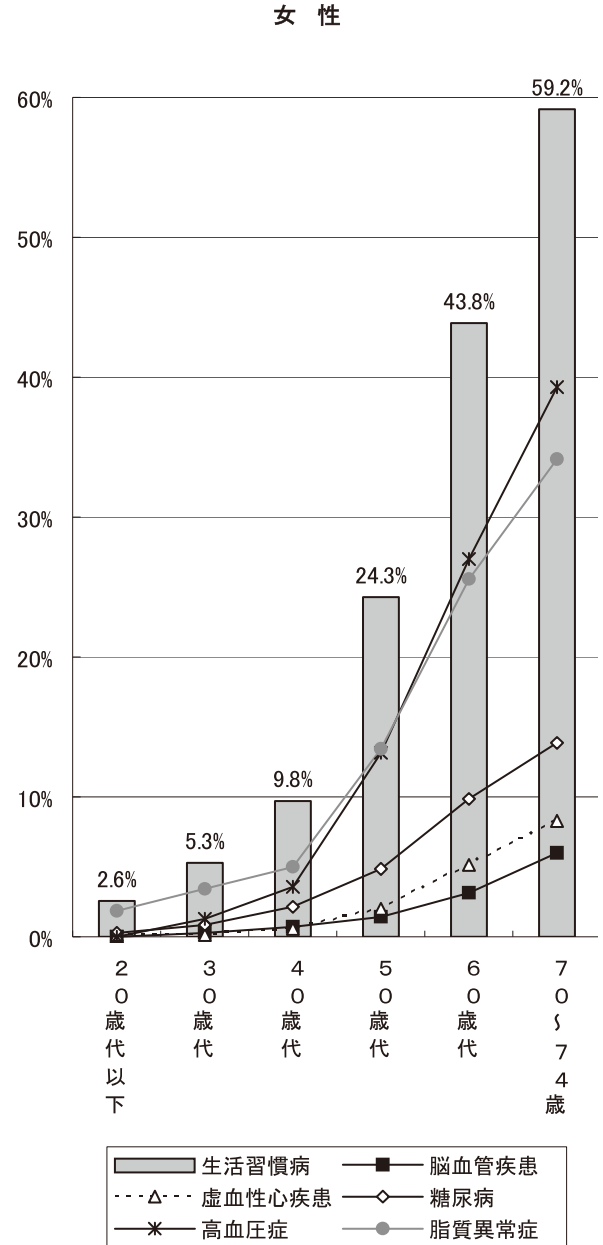
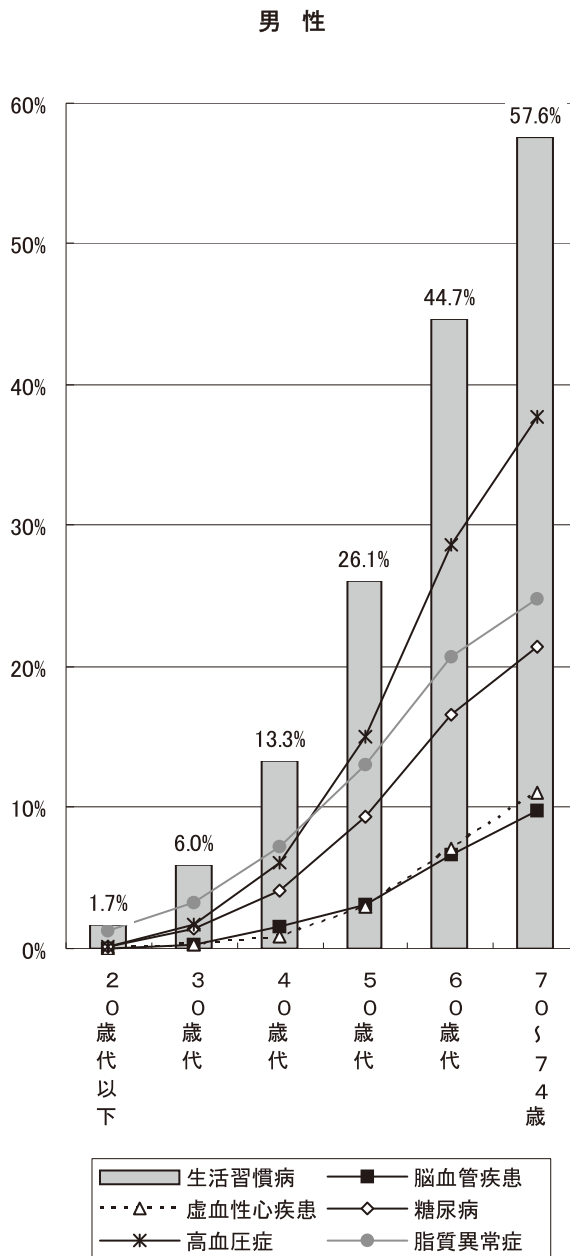
は、生活習慣病に起因する疾病

※ 社会保険表章による疾病分類表（119項目）から、大分類である下記の19分類を集計

- 1 感染症及び寄生虫症
- 2 新生物
- 3 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 4 内分泌、栄養及び代謝疾患
- 5 精神及び行動の障害
- 6 神経系の疾患
- 7 眼及び付属器の疾患
- 8 耳及び乳様突起の疾患
- 9 循環器系の疾患
- 10 呼吸器系の疾患
- 11 消化器系の疾患
- 12 皮膚及び皮下組織の疾患
- 13 筋骨格系及び結合組織の疾患
- 14 腎尿路生殖器系の疾患
- 15 妊娠、分娩及び産褥
- 16 周産期に発生した病態
- 17 先天奇形、変形及び染色体異常
- 18 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- 19 損傷、中毒及びその他の外因の影響

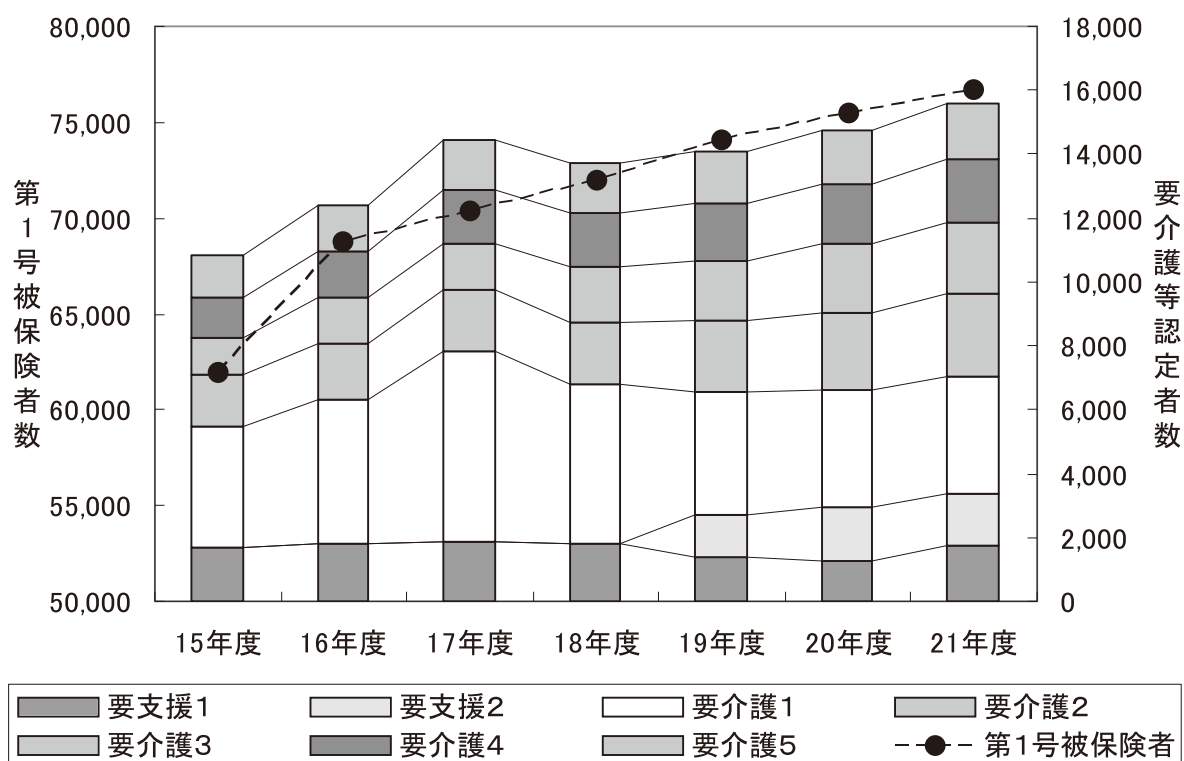
生活習慣病の代表的なもの(糖尿病、高血圧症、脂質異常、虚血性心疾患、脳血管疾患)の件数は、いずれの疾患でも年齢が上がるごとに割合が上昇しています。

■生活習慣病の年齢別の件数（平成21年5月診療分）



(16) 介護保険第1号被保険者に占める要介護認定者数の推移

第一号被保険者数(65歳以上)は毎年増加しており、要支援・要介護認定者数も増加しています。



(単位: 人)

年 度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計	第1号被保険者
15年度	1,683		3,813	1,584	1,193	1,235	1,344	10,852	61,903
16年度	1,823		4,503	1,745	1,423	1,458	1,454	12,406	68,731
17年度	1,873		5,938	1,916	1,479	1,679	1,552	14,437	70,321
18年度	1,830		4,958	1,935	1,770	1,670	1,551	13,714	71,953
19年度	1,390	1,341	3,830	2,218	1,896	1,807	1,618	14,100	74,034
20年度	1,266	1,668	3,693	2,422	2,129	1,903	1,685	14,766	75,438
21年度	1,744	1,623	3,666	2,599	2,210	1,985	1,791	15,618	76,689

※平成18年度までの要支援、経過的介護は、要支援1としている。

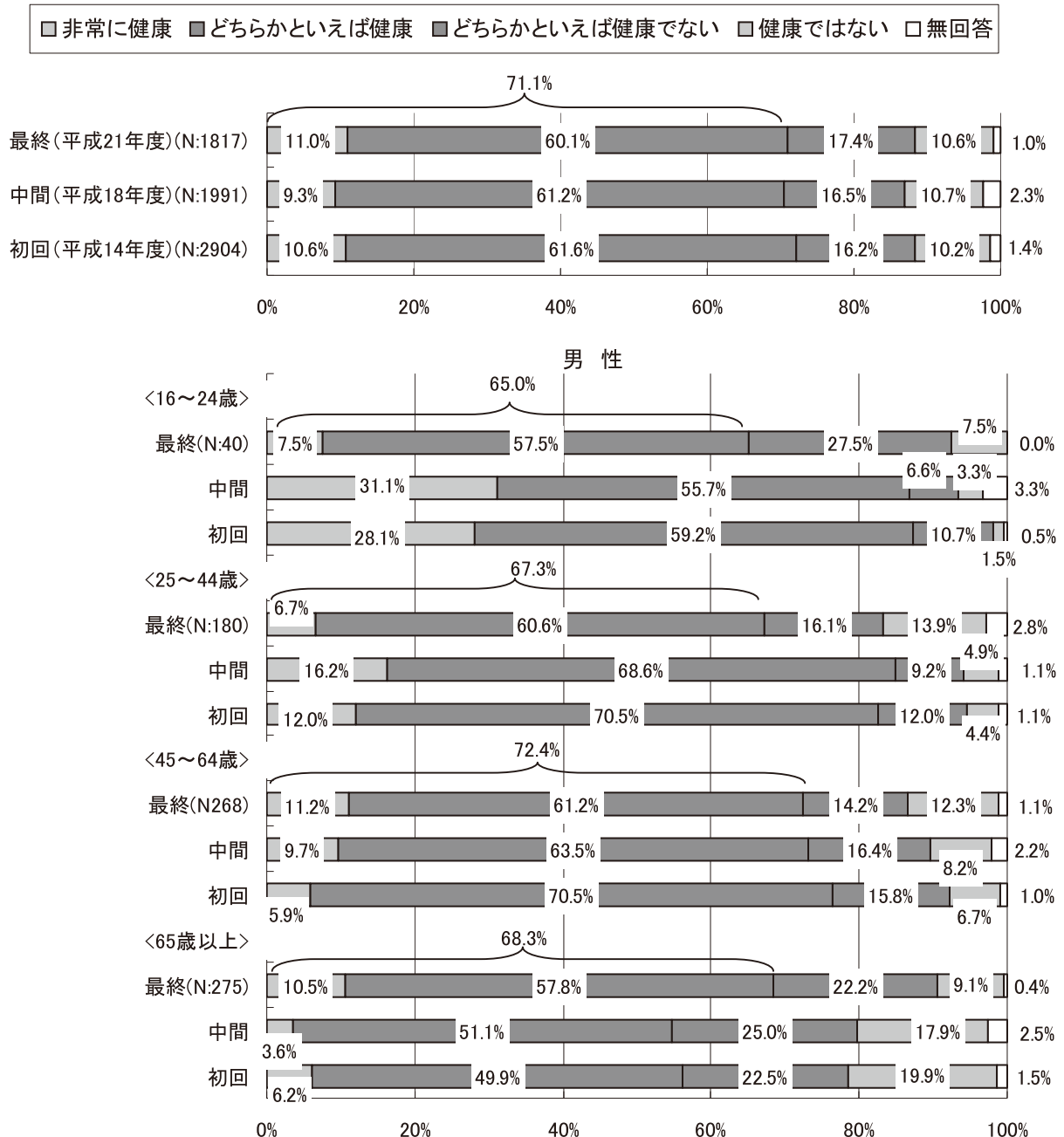
第2節 意識調査からみた市民の健康

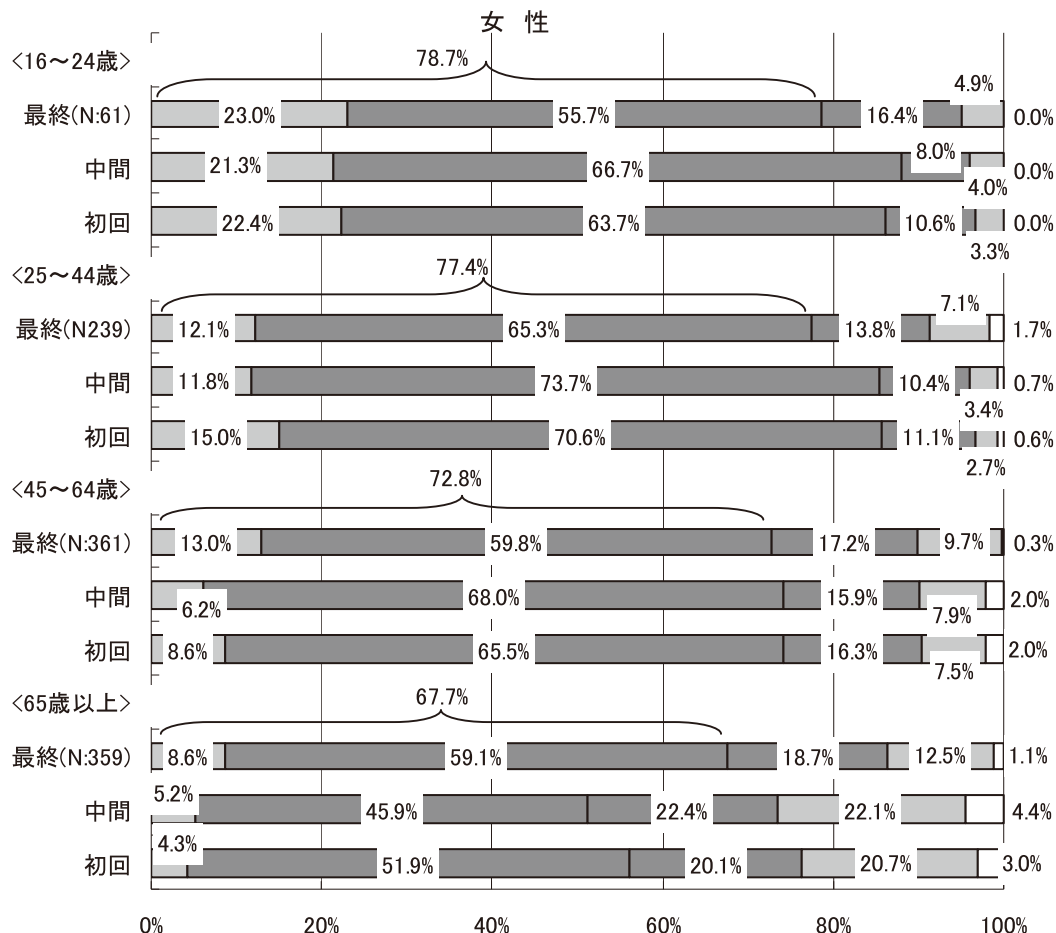
(1) 普段健康と感じている人

全体では、自分の健康状態について、『健康である』（「非常に健康」、「どちらかといえば健康」）と回答した割合は71.1%で、初回・中間調査とほぼ横ばいに推移しています。

男女年齢階層別にみると、男女ともに初回・中間調査に比べると「16～24歳」、「25～44歳」、「45～64歳」で『健康である』と回答した割合が低下し、『健康である』という意識が低下していることがわかります。一方、「65歳以上」では、『健康である』と回答した割合が上昇しています。

【平成21年度市民健康意識調査（16歳以上）】





(2) 普段健康のために気をつけていること

普段健康のために気をつけていることについて、複数回答で尋ねたところ、「気をつけていない」と回答した割合が14.5%と中間調査より低下し、気をつけている項目を回答した割合が、全ての項目で上昇しました。中でも、「食事」と回答した割合は71.2%と特に高くなっています。

【平成21年度 市民健康意識調査（16歳以上）】

